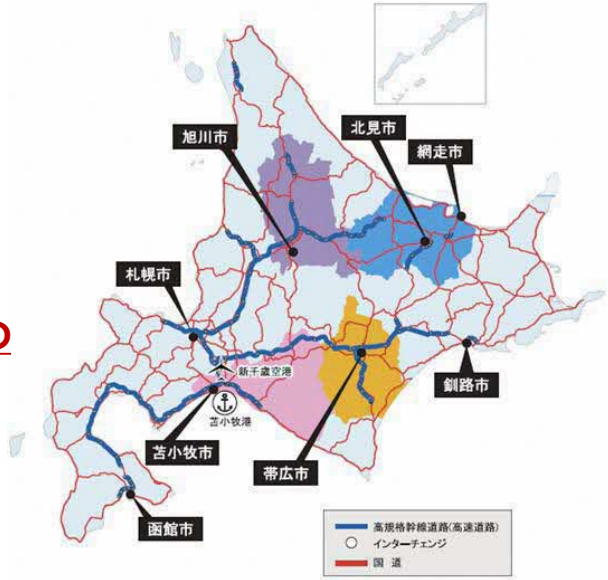
・公道における実証試験の適地情報提供

○道の「ワンストップ相談窓口」では、公道試験の実証試験に際して、道路形状など様々なお問い合わせに素早くお答えできるよう、テストコースが集積する４地域の公道(国道・道道)について、**様々な道路形状や周辺環境情報を集め、条件検索を行えるデータベース**を構築。（平成29年度事業）
○当該データベースの活用により、**公道走行試験のコース選定のスピーディーな立案を支援**。
→データベースの配布を希望される方は「ワンストップ相談窓口」までご連絡ください。

[データベースの特長]

道路形状など、試験に求める条件を指定し、検索することで該当ロケーションを地図上で簡単に把握可能。
→実証試験の走行ルートの立案を支援。

○道内28のテストコースが集積する４地域（道央（胆振）、上川、十勝、オホーツク）の**公道（国道及び道道）総延長約5,600kmについて、道路形状など２５の検索項目での条件検索が可能**。ユーザーが指定する条件に応じた箇所の位置確認を容易に行うことが可能。
○検索は、単一条件検索および複数条件検索（AND検索、OR検索）が可能、**検索結果は地図に示されるので効率的な走行ルートの立案に貢献**。



【検索可能２５項目】
①**車線幅**（2.75m～3.50mなど）　②**車線数**（往復１～６車線）　③**中央分離帯**（ガードレール帯、簡易ポール、分離帯なし）　④**歩道**（有無）　⑤**標識**（２枚以上標識の有無）　⑥**縦断勾配**（５～７.5%）　⑦**平面曲線**（50～150m）　⑧**トンネル**（有無）　⑨**橋梁**（有無）　⑩**交通量**(センサス交通量)　⑪**動物の横断頻発箇所**（有無）
⑫**信号機**（有無）　⑬**路面標示**（有無）　⑭**丁字路**（有無）　⑮**複数差路**（有無）　⑯**右折レーン**（有無）
⑰**合流・分流**（有無）　⑱**料金所**（有無）　⑲**立体交差**（有無）　⑳**踏切**（有無）　㉑**視界(逆光可能性)**（高低）
㉒**起伏連続**（クレストあり、サグあり、クレスト・サグなし）　㉓**GPSが取れない可能性**（有無）
㉔**ネットワーク環境**（４Ｇ、３Ｇ、なし）　㉕**車両置き場** (要問い合わせ)

資料：北海道経済部産業振興課「第11回北海道自動車安全技術検討会議」引用

北海道における実証試験の実例（1／2）

① 自家用 ・ レベル2　札幌市（道庁周辺～大通公園）

■**実施時期**：R元年10月18～19日（H29年10月11～13日）
■**型式**：自動車型
■**実施体制**：道、札幌市、群馬大学、NTT、NTTデータ
■**概要**：自動運転の認知度の向上と社会受容性の検証のため、札幌市都心部での実証を実施。R元年度の実証試験では、札幌市初となる一般市民による試乗体験も実施し、鈴木知事や秋元札幌市長も試乗。

② 物流サービス ・ レベル4　斜里町　物流のドライバー不足対策

■**実施時期**：R元年8月の約1ヶ月　■**型式：大型トラック**
■**実施体制**：UDトラックス、日本通運、ホクレン　協力：道経済部、農政部
■**概要**：農産物の輸送力確保、トラックドライバー不足の解消を狙いに、斜里町のホクレン中斜里製糖工場にて、てん菜集荷運搬を想定したルートで、UDトラックスが製造する大型トラックをベースとした車両により、全国初となるレベル4（高度運転自動化）の自動運転の実証実験を実施。ワンストップ窓口が農政部と連携し三者をマッチングした他、警察や道路管理者への届出等をサポート。

③ 移動サービス ・ レベル2　上士幌町　地方の移動手段確保

■**実施時期**：H29年10月14～16日、H30年10月7日、R元年10月5～7日、R3年12月15～19日
■**型式**：バス型
■**実施体制**：上士幌町、SBドライブ（現：BOLDLY）
■**概要**：役場を核としたコンパクトな町づくりを進めるため、新たな交通ターミナルと役場周辺を結びつけるルートでの実証を実施。町民の試乗体験も実施。R元年には公道での実証を実施。R3には国内初となるハンドルがない自動運転バスの冬道運行を実施。

④ 移動サービス ・ レベル2　大樹町　地方の移動手段確保

■**実施時期**：H29～R元　■**型式：バス**型
■**実施体制**：国土交通省北海道開発局
■**概要**：国交省による「中山間地域における道の駅等を拠点とした自動運転サービス」に向けた取組の一つ。過疎地における人流・物流の確保のため、地域の実情に応じた運行管理システムやビジネスモデル構築に向け、全国で初めて自家用有償旅客運送により、料金徴収する長期間（約1ヶ月）の実証を実施。

資料：北海道経済部産業振興課「北海道における実証試験の実例」引用

【参考】その他の北海道における実証試験の実例（2／2）

札幌市、苫小牧市　冬道の自動運転技術開発

■**実施時期**：H29～R元　■**型式**：カート型
■**実施体制**：
経済産業省、（株）ヴィッツ、アーク・システム・ソリューションズ（株）
■**概要**：将来的な冬道対応への需要を見越し、情報処理システムを搭載し、変化する道路環境においても自律的に判断し、低速ながら安全・確実に目的地に到達する新たな自動運転技術（snow-SLAM）の構築などの研究開発を推進。

札幌市（狸小路商店街）　配送ロボットの実証

■**実施時期**：H30年10月11日　■**型式**：配送ロボット
■**実施体制**：配送ロボット社会実装推進コンソーシアム（セイノーホールディングス、リアライズ・モバイル・コミュニケーションズほか）　協力：道経済部
■**概要**：外国人旅行客などで賑わう狸小路商店街での宿泊先から配送ロボットを連れ、スマートに「手ぶら観光」と「ショッピング」を楽しむユースケースを想定し、複数店舗での買物・積み込みなど、買物客の動線に寄り添う“人”への「追従」のほか、買物後、自律走行により宿泊先ホテルに帰還する「自動走行」によるデモンストレーションを、全国で初めて歩行者専用通行道路上で実施。

知床峠ほか　除雪車の省力化

■**実施時期**：H30～（継続中）
■**型式**：**ロータリー除雪車**
■**実施体制**：国土交通省北海道開発局
■**概要**：除雪現場の省力化に向け、産学官民が連携して取り組むプラットフォーム「除雪現場の省力化による生産性・安全性の向上に関する取組」（通称：i-snow）を形成し、H31.3には準天頂衛星「みちびき」に対応した受信機、運転支援ガイダンスと投雪装置の自動制御システムを搭載したロータリー除雪車の実証実験を実施。R元からは一般道で実証を開始し、R3から映像鮮明化技術の実装開始。

資料：北海道経済部産業振興課「北海道における実証試験の実例」引用